

Handwritten Japanese characters on a vertical paper label, likely the title or author's name.

特別
~5
6544
1





此輯の五巻を撰りて江樹の墓なる  
 己廿十の二をさゝりて後を不勤只内記  
 を相子と我後と燈集とを記す世  
 乃ありきれとむきと御書いししを并  
 不雪轉しとあう於てしるしり記し  
 燕都の外にるる記の燈集なる山を  
 十のしち斗れその八柄をさるる附属  
 ぬ



受紹謀叛との情中の居はるゝ  
 卿所持の一筆をさへし  
 此山を向ふは  
 拳をを積し  
 ち海人の  
 なる科  
 まるゝ  
 結成

圖の箇より  
 心画  
 ところ  
 あり  
 なる  
 舟  
 とも





とうと濁りたりれ又色をうをぬ流と  
 楽にち句をひて画凱と人多く此  
 中、其佳人とまうや、し中れ歌と  
 若や偷必と、清濁を、戀心  
 ちまうれ心磨生

宋徽宗畫學校の  
 試題よ

踏毛帰  
 去馬蹄

















追加

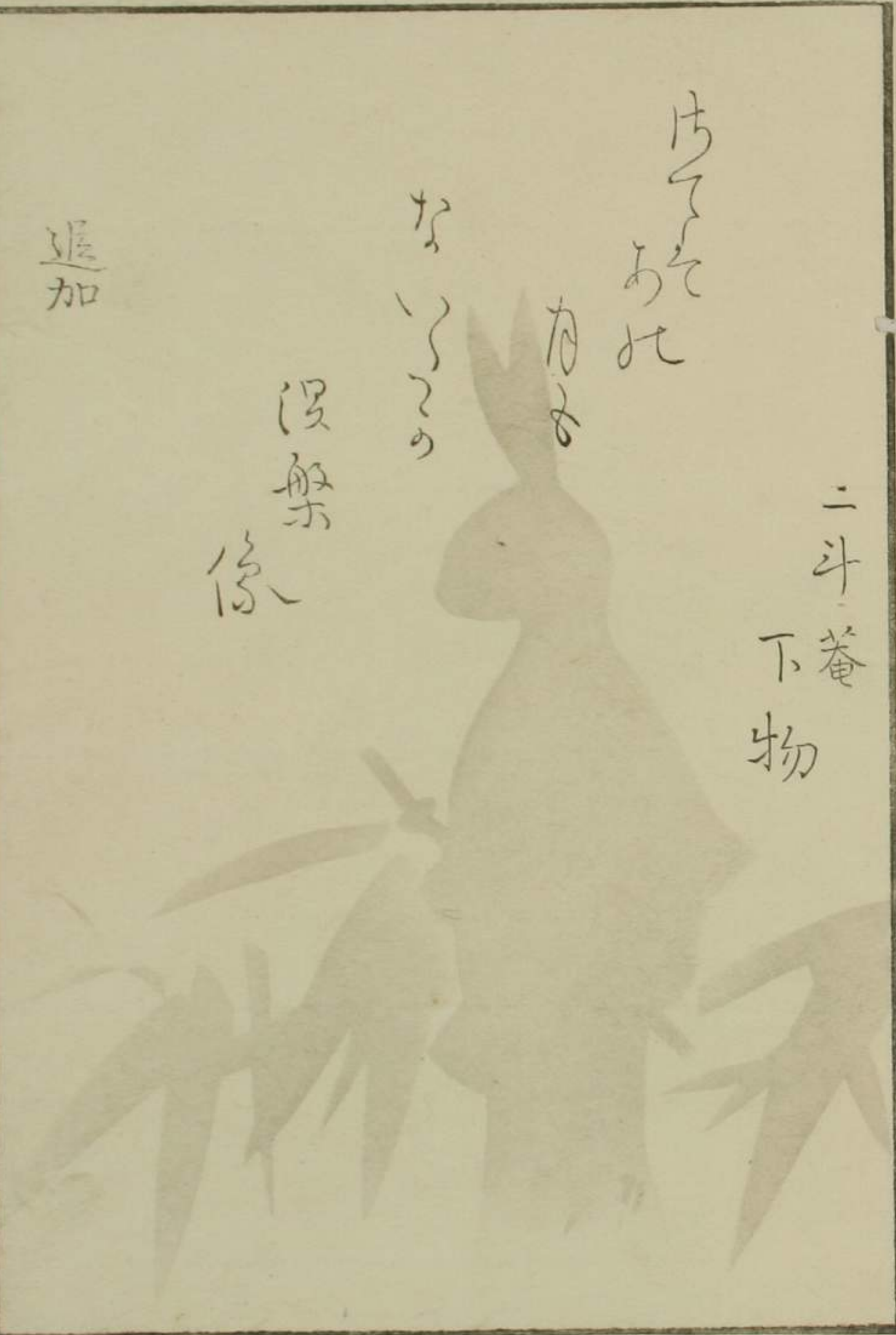
没解  
係

な  
い  
の

有  
子

は  
て  
あ  
れ

二斗  
下  
物



豆  
の

腹  
の

唐  
取  
山  
乃

北  
瓶







歩柳園  
 有貫  
 ふくや  
 汁  
 えつ  
 ふうん  
 ふうん



有桃  
 夏川  
 繩  
 一八脚ハ  
 あり  
 中  
 二





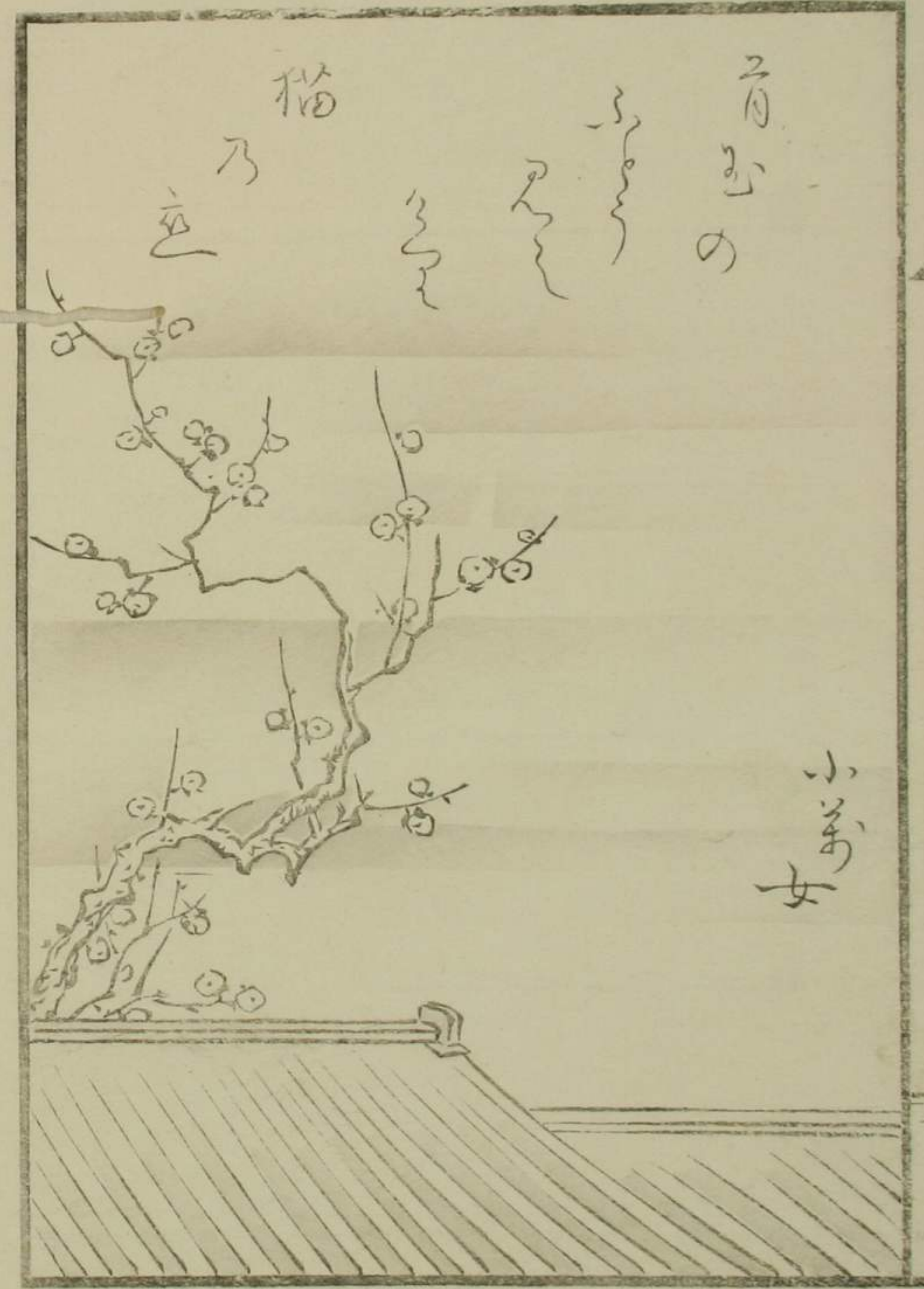














裏字の間よして風流を  
 買つたのめし一日のいそが  
 ち況し生狗れ家よや休  
 せよよよ借し首を四方  
 めくしーそをす歩よ移さ  
 四海の風景まらうよこれ  
 ば此そのせうこつー丹  
 茶を借さしておつうなる  
 その様子の上陰をまっは  
 死うつー一棟の風を能  
 なくしー事まらうと



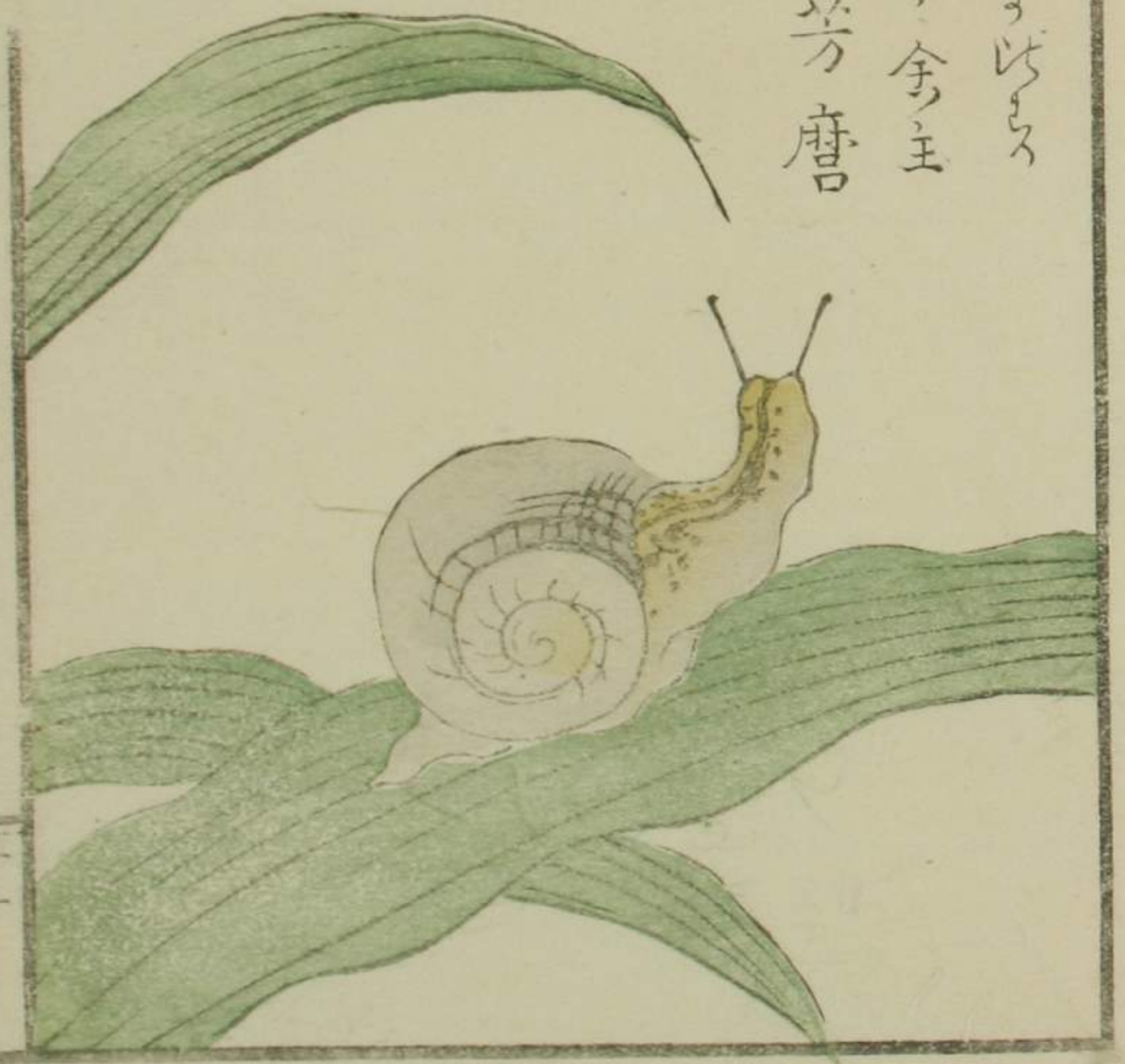
預め場平よけら  
 浩く余主

芳磨

本の下  
 房

遠く  
 言

こ  
 の  
 房











田 炊  
 の  
 力  
 主  
 存



磯  
 潮  
 乃  
 夏  
 視





離の  
 かし  
 花  
 弘安寺  
 いふ  
 石  
 洛  
 蛭牙奈  
 象連



う  
 ち  
 魚  
 田  
 喜  
 ね  
 喜  
 ね  
 ね  
 仲  
 糸





田桂

おれまの

尻

し

し





